

登録コード	L1340600		開講年度	2026			
担当教員	菊池 聡			副担当			
授業科目	文化情報論発展演習						
英文授業名	Cultural Informatics: Advanced Seminar						
授業タイトル	Advanced seminar on Culture and Information 4						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文文化情報論実習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			数量データをさまざまな方法で要約して情報化できるようになる。説得と態度変容のための効果的なプレゼンテーションができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			情報を多面的にとらえ、批判的に思考できるようになる。説得とコミュニケーションの技法としての有効なプレゼンテーションを実行できるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業は、水曜日3,4コマに開講される「文化情報論基礎実習」での修得事項を基礎として、発展的な課題に取り組む実習形式の授業であり、学生はこれらを連続して受講する。授業の概要は文化情報論基礎実習と対応しており、特に情報表現に関する応用的な課題に取り組む。						
授業計画	実習の進行により、内容や順序は多少変動する可能性がある。 第1週 知的生産のための情報整理と編集スキルを身につける 1 ガイダンス 第2週 同 2 文書情報処理の特性 第3週 同 3 DRY原則を理解する 第4週 身の回りのデータを柔軟に加工し、目的にあわせて利用する1 数値データ処理 第5週 同 2 関数の活用 第6週 同 3 実データの応用分析 第7週 情報を可視化してわかりやすく表現する 1 画像データの基本処理 第8週 同 2 オブジェクト編集 第9週 同 3 図解の応用 第10週 ビジュアル情報表現とプレゼンテーションスキルを訓練する 1 基礎理論 第11週 同 2 応用トレーニング 第12週 同 3 プレゼン 指定課題 第13週 同 4 プレゼン ビジュアル課題 第14週 同 5 最終プレゼン課題 総合 第15週 情報活用力を総括し、さらなる向上の手がかりを得る 授業アンケート実施						
成績評価の方法	習得した内容に関する課題の提出や小テストを毎週行い、それぞれの課題達成度を評価する。これらの評価をすべて加算したもので成績評価（100％）とする。途中で未提出の課題がある場合は、特別の理由がある場合をのぞき、加算して評価せずに、不可とする。必ずすべての課題をクリアしなければならない。また、形成的評価によって学習の支援を行うため、総合成績に占める個別の課題の割合は、実施回数と内容によって変わる。						
成績評価の基準	すべての課題において情報環境を適切に使いこなし、演習で直接扱った範囲だけでなく、それらを十分に発展させた高度な情報活用能力を示すことができれば「卓越している」、課題のほとんどで応用指摘・実践的な報活用能力を示すことができれば「かなり上にある」、課題のほとんどで演習でカバーしている範囲の情報活用能力を応用的に使いこなすことができれば「やや上にある」、複数の課題の多くで演習で扱ったレベルをクリアする情報活用能力を示すことが出来れば「水準にある」と評価される。						
事前事後学習の内容	毎回、情報活用に関する課題を指示するので、それを次の実習までに遂行しておくことを求める。						
履修上の注意	「文化情報論基礎実習」と連動して課題に取り組む授業であるために、本年度に「文化情報論基礎実習」を受講している学生のみ履修できる。必ず文化情報論基礎実習とセットで受講すること。文化情報論以外の学生であっても、教室設備に余裕があれば受講が可能な場合があるので、文化情報論基礎実習のシラバスを確認し、授業開始前に担当教員に相談すること。 学生が自らの思考力を伸ばすという授業目的に反して、生成AIを「不適切に使用」と判断された場合には、本授業の成績は0点とし、単位は認定されない。						
質問、相談への対応	実習形式の授業であり、実習中に具体的な質問を受けつける時間は十分に設ける。また、電子メールでアポイントメントを取った上で直接の質問と相談に適宜対応する。 担当教員・菊池のアドレス skikuch@shinshu-u.ac.jpへ。 ただし、個人の識別ができないメールについては返信しない。						
教科書	使用しない						
参考書	高橋佑磨・片山なつ(2016) 伝わるデザインの基本 よい資料を作るためのレイアウトのルール 技術評論社						